

5・5

現像後の写真チェック (撮影時の失敗例)

現像後、エックス線写真が問題なくできているかを確認する。
チェックポイントは、

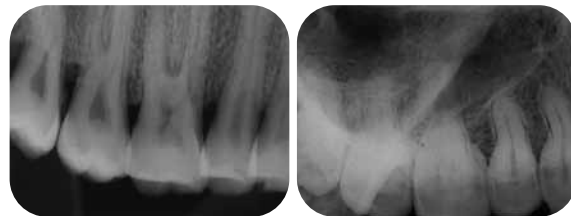
- ・対象となる歯全体がフィルム内に過不足なく写っているか(対象歯が的確な位置か)。
- ・歯の形態が崩れていないか(エックス線投影の角度が適切か、フィルムが曲がっていないか)。
- ・読影に支障のない濃度が得られているか(エックス線照射量が適切か)。
- ・エックス線照射領域が適切か。
- ・現像の失敗はないか(現像時での失敗は▶p.136 参照)。

起こりやすい撮影時の失敗例を図 5-50～59 に示す。



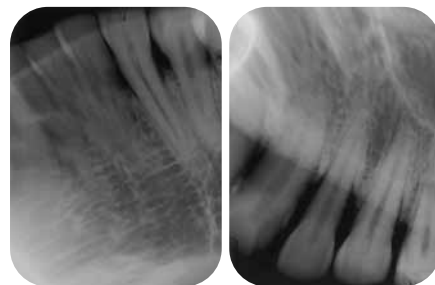
■ 図 5-50 水平的角度不良 ■

左：適正な正放線投影がなされている。
右：正放線投影が適正でないため、隣接面が重なっている。



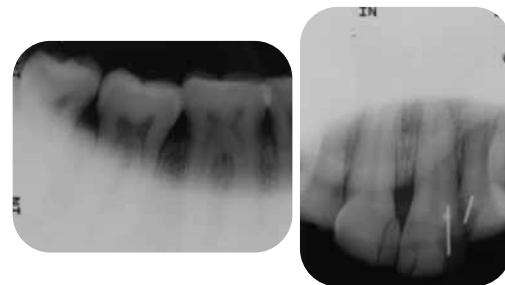
■ 図 5-51 垂直的角度不良 ■

左：二等分(面)法に必要な角度が不足しているため、像が伸びている。
右：逆に、角度がつきすぎているため、像が縮んでいる。
▶p.69, 二等分(面)法, 垂直的角度参照。



■ 図 5-52 フィルム曲げ ■

口腔内でのフィルム保持時にフィルムが曲がると、像が流れて、ひずむ。



■ 図 5-53 コーンカット ■

照射位置が適正でないため、フィルムにエックス線が当たらず、像が写らないで白くなっている。



■ 図 5-54 フィルムの位置不良 ■

左：歯に対してフィルム位置が浅すぎたため、歯根の一部が写っていない。
右：歯に対してフィルム位置が斜めだったため、歯が斜めに写っている。

■ 図 5-55 フィルムの取り扱い不良 ■

フィルムを折り曲げた部分が黒くなり、像が消えている。



■ 図 5-56 照射時間設定の不良(線量不適切) ■

左：エックス線量が少なすぎた(照射時間が短すぎた)ため、写真が白くなりすぎている。
中央：適正線量。
右：エックス線量が多すぎた(照射時間が長すぎた)ため、写真が黒くなりすぎている。



■ 図 5-57 二重写し ■

同じフィルムで2回撮影したため像が二重に写っている。



■ 図 5-58 裏写し ■

フィルムの裏表が逆だったため、鉛によりエックス線が吸収され、線量の不足から白くなり、鉛の様子が写っている。



■ 図 5-59 撮影中の動き ■

エックス線照射中に、患者の頭が動く、もしくはフィルムがずれる、もしくは焦点(エックス線装置)が揺れたりすると、像がぼける。